

目次:論文の構成

論題 「持続可能な森林管理」の地球的なレジーム形成と木材貿易に関する研究

ページ

序章 研究の課題と方法

1

第一章 「持続可能な森林管理」の地球的なレジームの形成過程

7

第一節 地球サミットに向けてのアジェンダ形成

8

アジェンダ形成段階ととらえることができるこの時期に、地球森林の問題の認識は「熱帯林の保全」から「全ての持続可能な森林経営」へと転換した。この時期に転換を促し、レジーム形成を交渉段階へと向かわせた背景には、環境NGOなど新たなアクターの力があつた。

1	地球環境アジェンダとしての「熱帯林の保全」の浮上	熱帯林の動態を初めて明らかにした報告書/地球環境問題との国際的な議論の展開	8
2	熱帯林保全のための国際的な枠組み	熱帯林行動計画の展開/地球環境レジームから見た熱帯林行動計画/国際熱帯木材機関の役割	9
3	アクターとしてのNGOの登場	TFAPでのNGOの役割/NGO主導による熱帯木材ボイコット	11
4	「熱帯林」から「全ての森林」へのアジェンダ転換と地球サミット準備会合	森林問題の枠組みづくりと地球サミットの準備会合/森林条約を巡る議論/森林管理レジーム論から見た地球サミット準備段階	12

第二節 地球サミットと森林合意

14

南北対立の中で「全ての森林の持続可能な森林管理」という原則についての合意達成の意義は大きい。ただし共通行動の規範や資金提供メカニズムの点で具体性に欠けた点があつたこと、生物多様性条約など他の環境条約との関係が明確でなかつたことなど、不十分な点がある。以後の課題は大きい。

1	森林原則声明の合意内容と構造	各国の持続可能な森林管理のあり方/国際的な枠組み	14
2	森林管理レジームのアジェンダとしての地球サミット合意	レジームの一般的定義と森林原則声明/森林原則声明の原則・規範としての問題点/地球サミットでの森林合意の評価	16

第三節 地球サミット後の国際対話と森林管理レジーム

18

国連の場での地球サミットフォローアッププロセスは続けられたが十分な成果が得られていない。それに対して環境NGOと木材産業が主導する森林認証や、他の環境条約における森林管理は着実に前進した。認証や他の条約の展開の中で、なお包括的なバランスのとれた森林レジームの必要性が示唆される。

1	地球サミットのフォローアップと森林条約をめぐる議論	地球サミットフォローアップの枠組み/持続可能な森林管理の基準指標の開発/膠着した森林条約をめぐる議論	18
2	森林認証ラベリングの展開	森林認証の展開過程/認証の原動力と課題/認証制度とその意義/森林認証と森林管理レジーム	20
3	他の条約での森林管理の展開	生物多様性条約の展開の中での森林管理/気候変動枠組み条約の中での森林管理/既存の関連する国際環境条約と森林管理レジーム	23

第四節 森林管理レジーム形成の課題と特質

25

森林レジーム形成の観点から、アジェンダ形成が不十分、途上国の参加問題という二つの問題点が指摘できる。木材貿易を含むレジーム形成が不可欠である。

1	レジーム論から見た森林管理レジーム形成の条件	レジーム形成にかかる途上国の参画問題と公平な枠組み/明白な解決策と明快な目標の設定/貿易と環境の関係	25
2	小括:森林管理レジーム形成の20年から学ぶもの	アクターの多様化への対応/途上国の参画を促す統合的で公平なテーブル/明快な目標の設定/貿易を含む制度設計	28

第二章 林産物貿易が森林管理レジーム形成に与える影響			37
第一節 森林管理レジーム形成とITTOの役割			38
国際熱帯木材機関で途上国を含む合意形成がある程度進んだ条件は、途上国が生産国という立場で取引が成立する環境があったこと、NGOの力が強いというITTOの性格と、ポイコットを背景とした消費者圧力の高まりという時代背景の二つの要素があった。			
1	ITTOにおける国際合意過程	ITTOの誕生と役割/サラワク調査団の派遣/2000年目標	38
2	生産国が地球的な資源管理を受け入れる条件	熱帯林管理レジームを形成する場としてのITTOの性格/先進国の消費者のインパクトとその程度/2000年目標のその後とITTOの役割	40
第二節 木材貿易が生産国の森林管理に与える影響			42
世界の主要林産物消費市場に於ける消費者の動向が産地国の森林管理水準に一定の影響をあたえていること、また、極東市場は欧米市場に比べて環境への影響力が軽微な状況にあることが明らかになった。			
1	分析の方法と対象国の概要	分析対象国の概要/森林管理水準を表すパラメーター/分析対象国の森林認証の概要	43
2	森林認証と林産物輸出総額の関係についての分析	森林認証保有国の認証森林面積の林産物輸出依存度による回帰分析/認証保有国と非保有国の林産物輸出依存度による分析	45
3	輸出依存地域別の分析	主要輸出依存国の分布/主要輸出先依存国の概要と認証森林面積/主要輸出依存地域の因子を入れた回帰分析	48
4	小括:本節の分析で解明された点		51
第三章 森林管理レジームの構成要素としての木材貿易問題			54
第一節 環境政策の手段としての貿易政策			56
環境保全を目的とした貿易政策は一国の措置として条約に基づく多国間と措置として多用されている。前者は制度として批判されているがインパクトを与えた、条約上の貿易手段は、規範の遵守性を担保するために重要な役割を果たしている。			
1	域外の環境保全を目的とした「一方的」貿易措置	議論の出発点としての米国の「一方的」貿易規制/「一方的措置」の果たした役割/森林認証ラベリングの制度的な展開の可能性	57
2	域外の環境保全を目的とした条約に基づく貿易規制	多国間環境条約の上での貿易規制の役割/環境条約規定のWTO条約上の問題点/来るべき森林管理レジームの中での貿易条項	59
第二節 経済の国際化が環境政策と環境の実態に及ぼす影響			59
経済の国際化、貿易の自由化進むことにより、環境政策の国際的な調整の必要性が高まっている。また、貿易の自由化が環境破壊を引き起こす程度は、環境政策が確立しているかどうか依存している。			
1	貿易と各国の環境製品基準の関係	デンマークの缶入りビール禁止事案	59
2	環境基準の差異と競争力・環境ダンピング	環境基準の差異の影響/環境ダンピングの概念	60
3	貿易自由化と環境破壊	環境と貿易の両立を巡る議論/環境と貿易のコンセンサス	61
第三節 「環境と貿易」の議論と森林管理レジーム			62
将来の森林管理レジームの構成要素として不適切な木材の貿易を規制、各国の政策の透明化が必要。また、貿易自由化と森林破壊の関連を断ち切るためにも、森林管理レジームが必要である。			
1	森林管理レジームの構成要素への含意	レジームの構成要素としての貿易問題/林業政策の国際的な調整	62
2	小括:森林管理レジームと日本の責務	貿易と環境の中で日本のおかれた立場/貿易自由化の流れと森林管理レジーム	63
終章 本論の意義課題と本論の視座			67
謝辞			73